

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一清水 1F		
所在地	静岡県清水区吉川129-4		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2274202494-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静岡鉄道の狐ヶ崎駅から徒歩5分のところにありながら施設周辺の自然環境に恵まれ、施設の2階から富士山を眺める事ができる静かな環境の中にあります。
 運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのか興味関心をもって関わり合い、ご本人ご家族管理職職員で話し合い、その方が望んでいる事をお一人おひとりに合った個別ケアの実践に努めております。食事も毎食職員の手作りであり、食の楽しさを提供できるよう取り組んでいます。また、日々の申し送りでの日々の状態を把握して状況に応じて話し合い、個々に合った出来る事を生かす楽しい介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ過で外出できない利用者の気持ちをおもんばかって、以前にも増して「食」にひたむきに取組み、特に伝承的なものに目を向け、現在は保存食に力を入れています。らっきょ漬け、梅干しなど「一緒につくるプロセス」を大切に考えて進めており、利用者も昔とった杵柄で梅のへたを爪楊枝で上手にとってくださいます。また食器ふきは「できる、できない」に分かれてしましますが、干し柿づくりでは「皮をむく人」「ゆがく人」「紐で結ぶ人」と役割を分担でき、大家族には大変適してもいます。このようにコロナ禍の環境下での楽しみを広げて、ウイズコロナで歩みを進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」の法人理念に基づき、今年度の目標は～今を「動く」～を掲げている。入居者様に対し今出来る事を行い、今後何を行うべきか考える為により一人一人の職員が入居者様を理解していく取り組みを行っている。	理念の実現に向けて職員で話し合い、毎年年間目標を策定しています。職員の意欲の高まりに乗じて若手のリーダーが1名誕生しており、自分たちで書式をつくるといった前向きな動きも生れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	以前は納涼祭の時は自治会へ依頼し地域の皆様と協力して行ったり、吉川八幡神宮祭の福引券を頂き、毎年参加する等、地域と密な繋がりを持っていました。今年は数年ぶりに夏祭りの招待状が届いた矢先、またも感染拡大の為急遽中止となった。	花火大会では音の迷惑があるかもと、近所にお詫びのポストインをおこない、建物のオーナーからはケースジュースの差し入れも届いています。また目の前の公園の花の植え替えでは、残った苗が寄贈されています。	縫い物ができる利用者で雑巾をつくり、自治会や近隣の保育園へ配付するといった、コロナ禍ならではのつながりを検討することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めていましたが、現況殆どの事は行えていない。 その中で、今年度も学生の介護体験受け入れは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり隔月、行事報告をスライドショーにしてみ頂く等行っていました。今年度は会議の対面開催としては休止が続いており、書面にて行う形をとっている。	運営推進会議はコロナ禍の影響で参会できず、書面開催となっています。介護度や年齢などのデータとともに日々の行事やレクリエーションが2ヶ月分掲載され、運営内容がわかりやすく総括されています。	3点期待します。①事故報告の掲載 ②返信シートが返ってこない為、質問シートとしてみる ③家族、市役所、地域包括支援センター等配付しているメンバーは出席者欄に紙面上の出席者として記載する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。 運営推進会議・身体拘束廃止委員会等についても、引き続き書面によるやり取りを継続している。	フェイスシールドや防護服、マスクなどのコロナ支援品が行政からは届いています。また、やりとりはほぼ書面上ですが、市役所のメール配信は都度確認して滞りのないよう図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。身体も心も縛り付けしてしまう不適切な声掛けをなくすために管理職が指導し、職員も自ら意識している。身体拘束廃止委員会を2か月ごと開催し、毎月の各ユニット毎の定例会でも、拘束に当たる行為について、都度話し合われている。	現在、対象となる症状がある利用者はいません。3ヶ月毎の身体拘束廃止委員会は学習したことや整理ができたり、スピーチロックを防ぐための方策を話し合えたりと、有意義な機会として定着しています。	次の2点を期待します。①議事録の出席者欄は委員とブザー参加者を識別できるようにする ②(地域や家族もいてやりにくいのかも知れませんが)委員会の協議内容は現場の事例検討をおこなう
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に複数回、身体拘束、虐待について研修・勉強会を行っている。 それ以外にも、職員のみでの身体拘束廃止委員会を2か月ごとに各フロアの定例会中に開催し、職員同士お互いに振り返りの場として活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括センターと相談しながら活用できるよう支援に努めている。近く、成年後見制度を利用している方が1名おり情報提供や医師への取次等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて入居者様やご家族に十分説明を行い不明点は具体例を挙げて理解して頂いたうえで契約を結ぶように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族が意見を述べやすいように特に運営推進会議時とケアプラン説明時に聞き取りしていた。現在は電話によるやり取りが主になっている。そこで頂いた要望については、職員全員が共有し申し送り時や定例会で要望に近づけるように努めている。	玄関で硝子越しで1日3組、上限時間20分などと条件はありますが、感染対策が敷かれた面会がつつがなく継続されています。声が聞こえづらいとの意見にはスマホを通しての会話などの工夫をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームは「職員の頑張りで成り立っている」という事をたびたび伝え仕事にやりがいと自信が持てるようにしています。職員がやりたいことは危険がなければすべて実現している。毎月の定例会に於いても、職員からの発言は活発に為されている。	職員からは小さなコトに至るまで細々意見が挙がっています。定例会はユニット毎で少人数なもの発言量に差があることは課題で、少ない人へはユニットリーダーや管理者がフォローしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に応じて無理なく勤められるように対応している。自己評価と面談が年2回あり振り返りができる機会を設け、職員表彰があり向上心を持って働けるように努めている。キャリアパス制度があり法人が求める能力に応じた給与体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒職員が2名と、外国人雇用も支援団体と協力して現在2名受け入れており、職員全員で育てていくことによりお互いが成長していけるよう指導を行っている。本部での研修の機会も用意され、毎月の勉強会も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有度グループホーム連絡会などの会合に参加し情報交換してサービスの向上に取り組んでいます。現在は休止中。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っている事、不安に感じていること等々アセスメントして入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現状や困っていること不安に感じている事、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか入居前に十分話し合っています。また、入居後の面会が困難な今は、会えない不安感の解消と本人・ご家族とのコミュニケーションの仲立ちに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めてグループホームでの生活が適しているのか話し合い安心して入居できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味がある事を日々探しています。お一人おひとりに役割を持っていただき生きがいを作っています。入居者様間の関係性にも留意し、穏やかな関係を築けるよう、必要時に職員が間に入る等している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の頻度が制限されている現状近況報告を密に行い、必要に応じご連絡しています。感染状況によっては都度面会の条件を変更し、現況は予約によって窓越しの面会等を行い、少しでも顔をみれる機会を持てるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、ご家族以上に面会の継続は困難となっているが、ご家族、ご本人の御希望に応じて、電話による会話等は時間制限等は設けず行っている。	梅干しや漬物が好きな人には家族から持ち込みがあり、職員が食事の度に用意しています。ノンアルコールビールで晩酌する人、畑の水やりが張り合いの人、手作業が得意で手芸に励む人、それぞれの日常が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの出来る事を把握し職員が間に入りユーモアを交え入居者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで関わって頂いていた等、関係性は保たれています。入居の相談があったり必要に応じて相談・支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初より今までの人生の情報を集め、希望を把握し対応しています。認知症が高度になり言葉が出ずらくなっても表情で気持ちを判断したり入居してから今までの情報を元に対応を決めています。	センター方式を摸して職員が作成したアセスメントシートが備わっています。ドリフターズのTV番組に大笑いしたり、ヒヤリハットならぬ「ハニーフット(甘いものでふっと微笑む)」と名付けたアプローチで笑顔を引き出すことに成功しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時、御家族や利用中の介護施設・ケアマネより情報を引き出すよう努め、また、入居後も日々の会話やご家族・関係者に伺い情報収集を行っています。情報は職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日状態が変化するため、毎朝の申し送りで確実に伝達し、各記録やチェック表を用いて、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。毎朝の申し送りの情報があるためカンファレンスでも意見が多く出て今後の対応に役立てています。	法改正で1名でよいことになった計画作成担当者は、変わらず2名配置です。家族には郵送となることもありますが、介護計画書への意見を仰ぎ、ユニット会議を中心に介護日誌と個別ケース記録も含み計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者様の声を聴き、またご家族様からの意見に耳を傾け思いや要望に添えるよう個別のケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。有度東保育園の園児との交流は非常に喜ばれています。但し、現在は訪問理容が断続的に続いているほかは、ほぼ休止中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。現況、ほとんどの方が主治医による月2回の往診を受けており、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。	18名全員が月2回の訪問診療を受けています。医師も24時間オンコールで安心な体制ですが、訪問看護の看護師が爪切りなども快く引き受けてくださり、また医師と同じ法人の為、連携も確かです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回かかりつけ医の看護師の訪問があります。状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方を専門的に見て頂き、報告、相談し主治医と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとり生活情報を提供しています。スムーズに退院できるように連絡をとり、主治医の病状説明にも同席するように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化に係る指針を説明して同意を得ています。身体状態の低下が懸念される入居者様は希望に応じて医師の指示の下、家族も交え終末期の受け入れ態勢を整えて支援に取り組んでいます。	点滴が毎日でも、また夜間でも診てくださる協力医なことから看取りの体制は整っています。ただ今年に入って新卒者の配属があり、看取りはまだまだ勉強中の若い社員がいるため、定例会や勉強会で学習を積んでいく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会を活用して毎月、勉強会を開催しており定期的に身につくように努めています。また、日々の業務の中でその都度管理者やベテラン社員が技術的な指導も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練と研修で指導しています。全職員が消火訓練や消防への通報訓練を行うよう計画しています。夜間想定や地震想定等、その都度シチュエーションを変えて行っており、今年度は浸水時の垂直避難を行った。	地震想定、夜間想定、水害想定など定番をほぼ網羅して訓練をおこない、利用者も玄関までで避難訓練も実践しながらです。二名で前と後ろを抱えて移動する方法も試みており、また専門家の立ちあいでは垂直避難の助言も得ています。	3日分の通常備蓄とローリングストックで4、5日分の確保はありますが、十分かどうか、あらためて見直すことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については常時見直し、向上を目指すことを心掛け、職員同士お互いに不適切な対応を注意し合える人間関係を目指しています。入浴、排泄もプライバシーに配慮しています。	介護度1の利用者が数名います。聞きかじって誤解を生むことも避けたく、利用者の中で他の利用者の話はせず、また申し送りは事務所内で部屋番号などをつかっています。また個人情報に係る書面は鍵付きロッカーに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を入居者様、ご家族に伺い対応している。入浴後の服選び、おやつ、行事食の料理など選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの状態や生活パターンに合わせて、その日の過ごし方を尊重しています。こちらから指示をするのではなく、まずは入居者様のやりたいことを尊重し、見守る事を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような心配り、声掛けをするよう心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や片付けをさせていただいています。リクエストでメニューに工夫をしており、お好み焼きやどら焼きをプレートで焼いたり、一緒に餃子を作る等、イベントとしても楽しんでいます。また、梅干しや切干大根、干し柿等様々な保存食作りも共に挑戦しています。	「食」に熱心に取り組み、ぼた餅、お好み焼き、いちご、梅ジュース、いなり寿司、花見弁当、らっきょう漬、梅干し、スイーツバイキングと、イベント関連だけでも目白押しです。利用者も壮健で餃子を包んだり、片付けにはりきってくださいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき、食事形態についてもトロミ・刻み・ミキサー等もまず試しながら小さな変化を見逃さず、適した形を探っていくよう努めます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを入居者様に行って頂いた後に確認し必要に応じて支援し、清潔保持、肺炎防止に努めています。また、必要な場合は御家族と相談の上、訪問歯科でのケア及び指導を受けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄と失敗による不快の軽減に努めています。	車いすをつかう人が6名います。立位が保てずベッド上での交換となっている人が3名いますが、座面に座っての排泄が本人の機能維持にも最適として、2人介助での支援を3名に対しておこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供しています。また、日々体操を行い便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の湯量や温度等の好みを把握し、同性介助を望まれる方や羞恥を訴えられる方の御希望にも応じるよう努めています。	入浴は週3日を目安とし、入浴のない日は下着を交換して清潔保持に努めています。浴槽をまたげなくなっても職員が中に入って本人を支え、湯に浸かる喜びを味わってもらえています。また柚子湯など時節風呂も励行しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握し、室温湿度物音に配慮し心地よい安眠につけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局と連携し、適正な使用法や使用期限のチェック等、随時行っています。個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があった時は申し送りの他、職員それぞれが確認出来るようにしています。服薬ミスがないように複数でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回以上企画を立て皆様での外出を毎月行っていたが、現在は庭での花の植え替えや畑作業。屋内でのゲームや保存食づくり、刺し子や作品作り等に力を入れています。	「毎月1回はお出かけ日」の代替として、外出以外のお楽しみを増やしています。ジャガイモ植え、雛飾りづくり、茶席、お好み焼きやぼた餅づくり...と1ヶ月の抽出とは思えない数で、なおかつ潮干狩りやイチゴ狩りも屋内で実現させています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買い物や要望があるときは職員が代行で行い、お届けしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮したうえで絵や装飾品やお花で季節感を感じられるように努めています。またレクリエーションとして季節に感じられる展示物を手作りしています。	換気を2時間毎におこなうほか、エアコンをやや強めにしたうえで窓をあけ24時間換気を実施しています。夕食後には掃除をプラスαで追加したり、手指消毒の回数も増やしています。また椅子が劣化してきたので、一新しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペース、1階のテラスを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。庭の椅子や、玄関前のベンチで過ごされる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。	居室は比較的広く、車いすを利用するようになっても動線は確保されていますが、自走の場合角に車輪などが当たるためスポンジを貼っています。また、大半の居室には写真立てに収まった家族、孫、ひまごの笑顔があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできることできないことに応じて最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一清水 2F		
所在地	静岡県清水区吉川129-4		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2274202494-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静岡鉄道の狐ヶ崎駅から徒歩5分のところにありながら施設周辺の自然環境に恵まれ、施設の2階から富士山を眺める事ができる静かな環境の中にあります。
 運営理念である「生き生き生きる」を実現するために入居者様が何を望んでいるのか興味関心をもって関わり合い、ご本人ご家族管理職職員で話し合い、その方が望んでいる事をお一人おひとりに合った個別ケアの実践に努めております。食事も毎食職員の手作りであり、食の楽しさを提供できるよう取り組んでいます。また、日々の申し送りで個々の状態を把握して状況に応じて話し合い、個々に合った出来る事を生かす楽しい介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ過で外出できない利用者の気持ちをおもんばかって、以前にも増して「食」にひたむきに取組み、特に伝承的なものに目を向け、現在は保存食に力を入れています。らっきょ漬け、梅干しなど「一緒につくるプロセス」を大切に考えて進めており、利用者も昔とった杵柄で梅のへたを爪楊枝で上手にとってくださいます。また食器ふきは「できる、できない」に分かれてしましますが、干し柿づくりでは「皮をむく人」「ゆがく人」「紐で結ぶ人」と役割を分担でき、大家族には大変適してもいます。このようにコロナ禍の環境下での楽しみを広げて、ウイズコロナで歩みを進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」の法人理念に基づき、今年度の目標は～今を「動く」～を掲げている。入居者様に対し今出来る事を行い、今後何を行うべきか考える為により一人一人の職員が入居者様を理解していく取り組みを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	以前は納涼祭の時は自治会へ依頼し地域の皆様と協力して行ったり、吉川八幡神宮祭の福引券を頂き、毎年参加する等、地域と密な繋がりを持っていました。今年は数年ぶりに夏祭りの招待状が届いた矢先、またも感染拡大の為急遽中止となった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方の受け入れを盛り込んだ行事企画などを行い認知症の理解を深めていけるように努めていましたが、現況殆どの事は行えていない。その中で、今年度も学生の介護体験受け入れは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、行政の方の参加もあり隔月、行事報告をスライドショーにしてみよう等行っていました。今年度は会議の対面開催としては休止が続いており、書面にて行う形をとっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に状況報告を行い、状況に応じて相談、連絡を行い連携に努めています。運営推進会議・身体拘束廃止委員会等についても、引き続き書面によるやり取りを継続している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。身体も心も縛り付け代わってしまう不適切な声掛けをなくすために管理職が指導し、職員も自ら意識している。身体拘束廃止委員会を2か月ごと開催し、毎月の各ユニット毎の定例会でも、拘束に当たる行為について、都度話し合われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に複数回、身体拘束、虐待について研修・勉強会を行っている。それ以外にも、職員のみでの身体拘束廃止委員会を2か月ごとに各フロアの定例会中に開催し、職員同士お互いに振り返りの場として活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば行政や地域包括センターと相談しながら活用できるよう支援に努めている。近く、成年後見制度を利用している方が1名おり情報提供や医師への取次等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて入居者様やご家族に十分説明を行い不明点は具体例を挙げて理解して頂いたうえで契約を結ぶように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族が意見を述べやすいように特に運営推進会議時とケアプラン説明時に聞き取りしていた。現在は電話によるやり取りが主になっている。そこで頂いた要望については、職員全員が共有し申し送り時や定例会で要望に近づけるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームは「職員の頑張りで成り立っている」という事をたびたび伝え仕事にやりがいと自信が持てるようにしています。職員がやりたいことは危険がなければすべて実現している。毎月の定例会に於いても、職員からの発言は活発に為されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に応じて無理なく勤められるように対応している。自己評価と面談が年2回あり振り返りができる機会を設け、職員表彰があり向上心を持って働けるように努めている。キャリアパス制度があり法人が求める能力に応じた給与体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒職員が2名と、外国人雇用も支援団体と協力して現在2名受け入れており、職員全員で育てていくことによりお互いが成長していけるよう指導を行っている。本部での研修の機会も用意され、毎月の勉強会も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有度グループホーム連絡会などの会合に参加し情報交換してサービスの向上に取り組んでいます。現在は休止中。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望、困っている事、不安に感じていること等々アセスメントして入居後も言葉の裏側を見過ごさないように傾聴し困っていることはその都度対応するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と現状や困っていること不安に感じている事、要望を伺い、どのような対応・支援が適しているのか入居前に十分話し合っています。また、入居後の面会が困難な今は、会えない不安感の解消と本人・ご家族とのコミュニケーションの仲立ちに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の面談でアセスメントを行い、ご本人に必要な支援、ご家族に必要な支援を見極めてグループホームでの生活が適しているのか話し合い安心して入居できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができること興味がある事を日々探しています。お一人おひとりに役割を持っていただき生きがいを作っています。入居者様間の関係性にも留意し、穏やかな関係を築けるよう、必要時に職員が間に入る等している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の頻度が制限されている現状近況報告を密に行い、必要に応じご連絡しています。感染状況によっては都度面会の条件を変更し、現況は予約によって窓越しの面会等を行い、少しでも顔をみれる機会を持てるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、ご家族以上に面会の継続は困難となっているが、ご家族、ご本人の御希望に応じて、電話による会話等は時間制限等は設けず行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの出来る事を把握し職員が間に入りユーモアを交え入居者同士の関係性を良好に維持していけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したご家族がボランティアで関わって頂いていた等、関係性は保たれています。入居の相談があったり必要に応じて相談・支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初より今までの人生の情報を集め、希望を把握し対応しています。認知症が高度になり言葉が出ずらくなっても表情で気持ちを判断したり入居されてから今までの情報を元に対応を決めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時、御家族や利用中の介護施設・ケアマネより情報を引き出すよう努め、また、入居後も日々の会話やご家族・関係者に伺い情報収集を行っています。情報は職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日状態が変化するため、毎朝の申し送りで確実に伝達し、各記録やチェック表を用いて、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会時にカンファレンスを行い、ご家族の要望も取り入れ主治医と相談しながら介護計画の作成に努めています。毎朝の申し送りの情報があるためカンファレンスでも意見が多く出て今後の対応に役立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに経過記録に時系列で記録し情報を共有しながら実践や見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から入居者様の声を聴き、またご家族様からの意見に耳を傾け思いや要望に添えるよう個別のケアの提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理髪店の訪問散髪、ボランティアの受け入れなど他者との触れ合いが楽しめるよう支援に努めています。有度東保育園の園児との交流は非常に喜ばれています。但し、現在は訪問理容が断続的に続いているほかは、ほぼ休止中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望を聞き対応しております。現況、ほとんどの方が主治医による月2回の往診を受けており、ご家族へ報告、相談を随時行い安心して生活出来るように支援に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回かかりつけ医の看護師の訪問があります。状態報告、バイタルチェックを行い変化のある方を専門的に見て頂き、報告、相談し主治医と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご家族、病院関係者と連携をとり生活情報を提供しています。スムーズに退院できるように連絡をとり、主治医の病状説明にも同席するように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化に係る指針を説明して同意を得ています。身体状態の低下が懸念される入居者様は希望に応じて医師の指示の下、家族も交え終末期の受け入れ態勢を整えて支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会を活用して毎月、勉強会を開催しており定期的に身につくように努めています。また、日々の業務の中でその都度管理者やベテラン社員が技術的な指導も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練と研修で指導しています。全職員が消火訓練や消防への通報訓練を行うよう計画しています。夜間想定や地震想定等、その都度シチュエーションを変えて行っており、今年度は浸水時の垂直避難を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については常時見直し、向上を目指すことを心掛け、職員同士お互いに不適切な対応を注意し合える人間関係を目指しています。入浴、排泄もプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を入居者様、ご家族に伺い対応している。入浴後の服選び、おやつ、行事食の料理など選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの状態や生活パターンに合わせて、その日の過ごし方を尊重しています。こちらから指示をするのではなく、まずは入居者様のやりたいことを尊重し、見守る事を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれへの関心を持てるような心配り、声掛けをするよう心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や片付けをさせていただいています。リクエストでメニューに工夫をしており、お好み焼きやどら焼きをプレートで焼いたり、一緒に餃子を作る等、イベントとしても楽しんでいます。また、梅干しや切干大根、干し柿等様々な保存食作りも共に挑戦しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を活用し適量の見極めと変化に早く気づき、食事形態についてもトロミ・刻み・ミキサー等もまず試しながら小さな変化を見逃さず、適した形を探っていくよう努めます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを入居者様に行って頂いた後に確認し必要に応じて支援し、清潔保持、肺炎防止に努めています。また、必要な場合は御家族と相談の上、訪問歯科でのケア及び指導を受けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄や失敗による不快の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供しています。また、日々体操を行い便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の湯量や温度等の好みを把握し、同性介助を望まれる方や羞恥を訴えられる方の御希望にも応じるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの尊重や状態を把握し、室温湿度物音に配慮し心地よい安眠につけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局と連携し、適正な使用法や使用期限のチェック等、随時行っています。個々の薬の情報は個人ファイルに綴じ込み変更等があった時は申し送りの他、職員それぞれが確認出来るようにしています。服薬ミスがないように複数でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、日常生活の中での役割を通して満足感を得られるように支援しています。また興味のあることに応えられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回以上企画を立て皆様での外出を毎月行っていたが、現在は庭での花の植え替えや畑作業。屋内でのゲームや保存食づくり、刺し子や作品作り等に力を入れています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが、買い物や要望があるときは職員が代行で行い、お届けしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、希望される方には電話や手紙のやり取りの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮したうえで絵や装飾品やお花で季節感を感じられるように努めています。またレクリエーションとして季節に感じられる展示物を手作りしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペース、1階のテラスを使い食卓とは別のスペースでくつろげるように努めています。庭の椅子や、玄関前のベンチで過ごされる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、使い慣れた品や、思い入れのある馴染みのものを置き居心地のよい場所になれるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできることできないことに応じて最小限の援助で生活が送れるよう支援に努めています。		